

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：がん放射線療法看護

平成 26 年 5 月改正

平成 29 年 3 月改正 (共通科目のみ)

平成 31 年 4 月改正 (共通科目のみ)

令和 2 年 2 月改正

令和 3 年 3 月改正 (共通科目のみ)

(目的)

1. がん放射線療法を受ける患者と家族の QOL 向上のため、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. がん放射線療法を受ける患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. がん放射線療法を受ける患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

(期待される能力)

1. がん放射線療法を受ける患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、個別的なケアを計画、実施できる。
2. 放射線の特徴及びがん放射線療法の治療計画を理解し、治療の再現性の向上・計画期間の遵守のための看護を実践できる。
3. がん放射線療法の有害事象についてアセスメントし、効果的な予防と症状緩和ができる。
4. がん放射線療法において確実な放射線防護策、安全管理を実践できる。
5. がん放射線療法を受ける患者・家族が、セルフケア能力を維持し、QOL 向上のための効果的な看護を実践できる。
6. がん放射線療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
7. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
8. がん放射線療法看護の役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応ができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		105
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15	小計	
	7. 指導	必修	15		
	8. 特定行為実践	選択	15		105（+305）
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15	小計	
	19. 対人関係	選択	15	305	
専門基礎科目	1. がん看護学総論	必修	15		120
	2. 腫瘍学概論Ⅰ	必修	15		
	3. 腫瘍学概論Ⅱ	必修	15		
	4. ヘルスアセスメント	必修	15		
	5. がんの医療サービスと社会資源	必修	15		
	6. がん放射線療法概論	必修	30	小計	
	7. がん放射線療法看護概論	必修	15		
専門科目	1. 対象に合わせた放射線療法と看護	必修	30		270
	2. がん放射線療法の治療計画管理における看護	必修	30		
	3. がん放射線療法を受ける患者と家族への心理及び社会看護支援	必修	15		
	4. がん放射線療法に伴う急性期有害事象の症状管理とセルフケア支援	必修	30		
	5. がん放射線療法に伴う晩期有害事象の症状管理とセルフケア支援	必修	15		
	6. 密封小線源治療及び内用療法に伴う有害事象の症状管理とセルフケア支援	必修	15	小計	
	7. 放射線療法における放射線の安全な取り扱い	必修	15	150	
学内演習・臨地実習	学内演習	必修	60		240
	臨地実習	必修	180	小計 240	
			総時間数	615（+305）	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

- ※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。
「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。
- ※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。
(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数	
専 門 基 礎 科 目	1. がん看護学総論	1) がん看護の専門性及び発展の背景や領域、課題を理解できる。 2) がん患者を理解する上で必要な概念を理解できる。	1) がん看護の専門性、発展と課題 2) がん患者・家族の特徴 (がん患者のQOL、がん患者の家族、がんサバイバーシップなど) 3) がん患者を理解するために必要な概念 (セルフケア理論、症状マネジメントモデル、ストレス・コーピング理論、危機理論など) 4) がんリハビリテーション 5) がん患者とヘルスプロモーション 6) 緩和ケア・エンドオブライフケア概論 (トータルペインの概念と全人的な理解を含む)	15
	2. 腫瘍学概論 I	1) がん看護実践に必要ながんに関する医学的知識を理解する。 2) がん細胞、疫学、診断、予防検診を理解することでがん医療を学ぶ基礎的な知識を理解する。	1) がん細胞の特徴 (1) 細胞の構造 (核, 細胞質, 細胞膜) (2) 細胞の発育過程 (分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達など) (3) がん細胞の特徴 (発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移、ゲノム) 2) がんの疫学 (1) 統計 (罹患率, 死亡率) (2) がん登録システム 3) がんの診断 (1) 診断方法 (画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理、遺伝子診断など) 4) がんの予防と検診 (1) がんのリスク因子 (2) がん検診の有効性	15
	3. 腫瘍学概論 II	1) がん治療の特徴を理解することで、がん患者の理解を深める。	1) がんの集学的治療 (手術療法、薬物療法、放射線療法、免疫療法) 2) IVR (Interventional Radiology) の対象と方法 3) 造血幹細胞移植 4) サイコオンコロジー 5) 補完代替療法	15
	4. ヘルスアセスメント	1) がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	1) アセスメントプロセス 2) フィジカルアセスメント (呼吸機能、循環機能、脳/神経機能、栄養代謝状態、感覚・運動機能等) 3) 精神・心理的アセスメント 4) 社会的アセスメント 5) 家族のアセスメント	15

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
5.	がんの医療サービスと社会資源	1) がん患者の療養の場の特性や在宅療養のために必要な基礎知識について理解する。	1) がんの医療政策 (がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録等の推進に関する法律、診療報酬など) 2) がんのチーム医療 (放射線腫瘍医、診療放射線技師、がん看護専門看護師、他の認定看護師など) 3) がん患者と家族が活用できる社会資源 (高額療養費制度、在宅酸素療法など) 4) がんと医療経済 (治療費、就労問題など) 5) 在宅医療を支える職種間の連携 6) 在宅療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割	15

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 基 礎 科 目	<p>6. がん放射線療法概論</p> <p>放射線療法における医療チームで役割を担うため、放射線腫瘍学の基盤となる知識を習得する。</p> <p>1) 今後の放射線療法の展望を踏まえ、変化の著しい放射線療法の動向について理解する。</p> <p>2) 放射線物理・生物学的基礎知識を理解し、放射線の物質や生体に及ぼす影響を踏まえ、治療計画の理解や有害事象に対するケアに応用する。放射線療法の治療目的を理解する。</p> <p>3) 安全で効果的な放射線照射法、治療装置を理解する。</p> <p>4) 治療計画を理解し、再現性の確保や有害事象に対するケアに応用できる。</p> <p>5) 放射線療法の効果判定方法・基準及び有害事象共通毒性規準について理解し、患者のアセスメントに応用できる。</p>	<p>1) 放射線療法の動向</p> <p>2) 放射線物理学 放射線療法に用いられる放射線の種類と特徴 (X線、β線、γ線、粒子線など)</p> <p>3) 放射線生物学 放射線の生体に及ぼす影響 (照射の量、回数、間隔)</p> <p>(1) 細胞の放射線照射による効果</p> <p>(2) 組織、臓器の放射線照射効果、分割照射における組織の放射線感受性</p> <p>(3) 放射線による各臓器の耐容線量</p> <p>4) 放射線療法の治療目的</p> <p>(1) 放射線治療の目的</p> <p>(2) 目的別照射法の適応と方法</p> <p>①根治的放射線療法</p> <p>②予防的放射線療法</p> <p>③緩和的放射線療法</p> <p>5) 放射線照射法の種類と治療装置</p> <p>(1) 外部照射法</p> <p>①照射法：固定照射法、運動照射法、IMRT (強度変調放射線治療)、SRI (定位放射線照射)、IGRT (画像誘導放射線治療)</p> <p>②治療装置：リニアック治療装置、陽子線治療装置、重粒子線治療装置、定位放射線治療装置</p> <p>③術中照射、全身照射</p> <p>(2) 密封小線源治療 (高線量率、低線量率、腔内、管腔内、組織内、モールド、一時挿入、永久挿入)</p> <p>(3) 非密封小線源治療 (放射線核種 (RI) 内用療法)</p> <p>6) 放射線治療計画</p> <p>(1) 診断・治療方針の決定、集学的治療における位置づけ 部位及び総線量、分割法、併用療法</p> <p>(2) 放射線治療における照射範囲・深さ・角度の設定方法</p> <p>①照射範囲設定の原則 (GTV・CTV・PTV など)</p> <p>②照射方法別照射範囲設定方法</p> <p>③線量分布図、DVH</p> <p>7) 効果判定、有害事象共通毒性規準 (固形がん、造血器腫瘍)</p>	30
	<p>7. がん放射線療法看護概論</p> <p>1) がん放射線療法における看護を展開するために、その基盤となる対象理解の方法とその看護について理解する。</p> <p>2) がん放射線療法看護認定看護師の役割を理解する。</p>	<p>1) がん放射線療法を受ける患者の特徴</p> <p>2) がん放射線療法看護の特徴</p> <p>3) がん放射線療法の医療チームにおける看護の役割</p> <p>4) がん放射線療法看護認定看護師の役割 (実践・指導・相談)</p> <p>5) がん放射線療法を受ける患者・家族の意思決定支援</p>	15

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	1. 対象に合わせた放射線療法と看護	1) 各臓器、治療目的、成長発達段階の特徴ならびに標準治療法、放射線治療法と有害事象について理解し、看護アセスメント及びケアに活用する。	1) 各臓器別の標準治療（集学的治療を含む）、有害事象（晩期有害事象を含む）の特徴と看護 (1) 脳、脊髄、眼のがん (2) 頭頸部がん (3) 消化器がん (4) 肺がん (5) 乳がん (6) 骨・軟部組織のがん (7) 血液、リンパ組織のがん (8) 女性生殖器のがん (9) 泌尿器、男性生殖器のがん (10) 皮膚がん 2) 緩和的放射線治療（集学的治療を含む）、有害事象の特徴と看護 (骨転移、脳転移、上大静脈症候群など) 3) 小児がんに対する標準治療（集学的治療を含む）、有害事象（晩期有害事象を含む）の特徴と看護 4) 悪性疾患以外の放射線療法の適応 (1) ケロイド、血管腫 (2) 脳動静脈奇形	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	2. がん放射線療法の治療計画管理における看護	<p>がん放射線療法における適切な治療計画管理とリスクマネジメントについて理解し、患者にとって確実に再現性のある治療環境の整備と精度の高い治療を保証する援助を実践できる。</p> <p>1) 放射線治療中に生じる危険要因をアセスメントし、確実に再現性のある治療環境を整えることができる。</p> <p>2) 放射線療法を受ける小児及び高齢者と家族への援助について理解し実践できる。</p> <p>3) 安全ながん放射線治療の実施における看護師の役割について理解し実践できる。</p> <p>4) 再現性を確保するための位置合わせ・固定時の援助について理解し、実践できる。</p> <p>5) 放射線治療中に生じる心理・精神的問題と症状緩和のために必要な看護ケアを実践できる。</p> <p>6) 原疾患に伴う様々な症状のある患者への症状マネジメントについて理解し、実施できる。</p> <p>7) 臓器の体内移動が治療に及ぼす影響を理解し、最小限にするための援助が実践できる。</p>	<p>1) 確実に再現性のある治療環境の提供</p> <p>(1) 治療中に生じる危険要因とアセスメント</p> <p>①治療室の環境要因</p> <p>②患者要因（心理的要因、カテーテル類、ベンチレーターをはじめとする医療機器使用時の注意点）</p> <p>(2) 小児、高齢者の放射線療法における確実に再現性のある看護</p> <p>(3) 安全ながん放射線治療実施における看護師の役割</p> <p>(4) 安全な治療実施のための説明</p> <p>2) 再現性を確保するための看護支援</p> <p>(1) マーキングの管理</p> <p>(2) 固定器具の選択、治療環境の整備</p> <p>(3) 心理・精神的問題 (パニック発作・閉所恐怖症・不安・緊張・認知障害・精神科疾患など)</p> <p>(4) 原疾患や併用療法に伴う症状マネジメント (疼痛・呼吸苦・咳嗽・悪心・嘔吐・痙攣など)</p> <p>(5) 前処置</p> <p>①頭頸部照射前の口腔管理のアセスメントと指導（抜歯・金冠除去、スパーサー作成など）</p> <p>②臓器移動を最小限にするための前処置の適応の確認と確実な実施</p> <p>a. 臓器の呼吸性移動</p> <p>b. 骨盤部照射時の排泄物 (尿・便・ガス) による臓器の体内移動</p> <p>c. 上腹部照射時の消化管内容物による臓器の体内移動</p> <p>d. 体型の変化による移動 (サードスペースの水分：胸水・腹水・浮腫、急激な体重変化など)</p> <p>e. 身体の変形側湾・拘縮</p>	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	3. がん放射線療法を受ける患者と家族への心理及び社会的看後支援	発達段階とがんの病の軌跡による患者と家族の心理及び社会的状態の変化を理解して、放射線療法の目的に沿った治療が完遂できるように看護支援が実践できる。	1) がん放射線療法を受ける患者の心理状態のアセスメントとケア (1) がんのステージ及び治療過程における患者の心理的变化と対象理解、心理アセスメント (2) 患者の心理的反応に対するケア 2) がん放射線療法を受ける患者の社会的状態のアセスメントと支援 3) がん放射線療法を受ける患者の家族のアセスメントとケア 4) 発達段階に応じた患者のアセスメントと家族支援（小児がん含む） 5) 外来通院、特殊な治療環境における心理・社会的アセスメントとケア	15
	4. がん放射線療法に伴う急性期有害事象の症状とセルフケア支援	1) がん放射線治療に伴う急性期有害事象及びその増悪因子について理解できる。 2) がん放射線療法の急性期有害事象をアセスメントし適切な看護ケア及びセルフケア支援を実践することができる。	1) がん放射線療法に伴う有害事象の特徴 (1) 有害事象の増悪因子 ①治療の特徴（併用療法、照射法、照射回数、線量、線質） ②患者の状態（合併症、年齢、栄養状態、セルフケア能力） (2) 有害事象発現の時期 2) 急性期有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援（易感染性を含む） (1) 宿酔・倦怠感 (2) 皮膚障害（皮膚の潰瘍、脱毛を含む） (3) 消化管粘膜炎（口腔粘膜炎を含む） (4) その他の粘膜炎（眼瞼、陰部、膀胱を含む） (5) 唾液腺障害（味覚障害を含む） (6) 骨髄抑制	30
	5. がん放射線療法に伴う晩期有害事象の症状管理とセルフケア支援	1) がん放射線治療に伴う晩期有害事象及びその増悪因子について理解できる。 2) がん放射線療法の晩期有害事象をアセスメントし適切な看護ケア及びセルフケア支援を実践することができる。	1) 晩期有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援 (1) 放射線肺臓炎 (2) リンパ浮腫 (3) 白内障、視神経障害 (4) 中耳炎、難聴、聴神経障害 (5) 不妊、性腺機能障害 (6) 口腔・消化管障害 (7) 二次がん	15

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	6. 密封小線源治療及び内用療法に伴う有害事象の症状管理とセルフケア支援	1) 密封小線源治療及び内用療法に伴う有害事象をアセスメントし、適切な看護ケア及びセルフケア支援を理解し、実践できる。	1) 密封小線源治療及び内用療法に伴う急性期及び晩期有害事象の機序、アセスメントとケア、セルフケア支援 (1) 子宮腔内照射 ① 皮膚障害 (陰部、肛門) ② 消化器症状 ③ 膀胱粘膜障害 ④ 腸管粘膜障害 ⑤ 不妊、性腺機能障害 (2) 前立腺がん密封小線源 ① 排尿障害 ② 消化器症状 ③ 性腺機能障害 ④ 直腸出血 (3) 内用療法 ① 骨髄抑制 ② 消化器症状 ③ 唾液腺障害 2) 内用療法後の排せつ物の取り扱い	15
	7. 放射線療法における放射線の安全な取り扱い	1) 放射線療法における放射線防護について理解し、看護実践ができる。 2) 医療被曝に関する関係法令を理解し、医療者の職業被曝を最小限とすることができる。	1) 放射線防護に関する法令・基礎知識 2) 医療者の職業被曝低減のための方策 3) 治療の特徴を踏まえた放射線防護 (1) 外部照射に関する放射線防護 (2) 密封小線源治療に関する放射線防護 (3) RI 内用療法における放射性同位元素に関する放射線防護 (4) 看護師、患者・家族への指導	15

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	学内演習	<p>がん放射線療法看護認定看護師として行動の基盤となる思考過程とスキルを身につける。</p> <p>1) 施設内の放射線防護に対する方策を理解し、自施設での看護職員の放射線防護策に適用することができる。</p> <p>2) コミュニケーションスキルを身につけ、患者や家族への指導や関わり・他職種間のディスカッションに活かすことができる。</p> <p>3) 放射線治療を実施する施設の見学を通して、放射線治療の取り組みと課題について考察を深める事ができる。</p> <p>4) 自己の看護実践事例を用いて分析し、専門的看護ケアにおける看護の役割・自己の課題を明らかにできる。</p>	<p>1) 施設内職員の放射線防護に関する方策の検討</p> <p>2) 効果的なコミュニケーションのための演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者や家族への説明 ・外来などでの短時間での関わり ・意思決定支援 ・Bad News の伝え方 ・他職種間のディスカッションを想定したコミュニケーション <p>3) 最新の放射線治療を実施する施設見学</p> <p>4) 実習での受け持ち患者のケースレポート作成</p>	60

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
臨地実習	臨地実習	<p>がん放射線療法を受ける患者とその家族について、専門的知識・技術を用いて的確にアセスメントし、看護計画の立案、実践、評価ができる。</p> <p>1) がん放射線療法を受ける患者に、確実に効果的な治療計画を保證するための看護を提供できる。</p> <p>2) 身体・心理・精神面等多角的なアセスメントを行いセルフケア支援や治療を完遂するための支援ができる。</p> <p>3) 密封及び非密封小線源治療とそれに伴う特徴的な有害事象と看護ケアについて理解できる。</p> <p>4) 放射線防護に関する実習施設での取り組みを見学し、自施設での課題を明らかにできる。</p> <p>5) 認定看護師の活動について理解を深め、自己の課題を明らかにできる。</p> <p>6) 放射線療法に携わる看護師に対して、事例やカンファレンスを通して指導ができる。</p> <p>7) 相談のプロセスを見学・考察し、がん放射線療法看護認定看護師として相談のスキルを身につけられる。</p>	<p>1) 放射線療法の準備、治療中、治療終了後までの一連の治療過程にある患者を受け持ち、以下の内容を実践する。</p> <p>(1) 放射線治療計画遵守のための前処置、再現性の確保のためのケア、患者指導</p> <p>(2) 有害事象のマネジメント 受け持ち患者の要件は以下それぞれの患者を1名ずつ、計2名受け持つ。</p> <p>①集学的治療に伴う外照射治療の患者 ②緩和目的で放射線治療を受ける患者</p> <p>2) 特殊治療の見学を行うことが望ましい。以下の (1) (2) (3) に該当する患者の見学実習を行うことが望ましい。</p> <p>(1) 密封及び非密封小線源治療 (放射線核種 (RI) 内用療法) を受ける患者 (腔内照射・前立腺シード埋め込み・ヨード内服・ストロンチウム投与・イットリウム投与患者など)</p> <p>(2) 高精度放射線治療 (IMRT: 強度変調放射線治療、SRI: 定位放射線照射、IGRT: 画像誘導放射線治療など) を受ける患者</p> <p>(3) 晩期障害を呈する患者</p> <p>3) 施設における放射線防護の設備やシステムについて学ぶ。</p> <p>4) 多職種間カンファレンスや症例検討等の場において、チーム医療における協働について考察する。</p> <p>5) 放射線療法に携わる看護師に対する指導</p> <p>6) がん放射線療法看護認定看護師等の相談場面の見学を通して、相談のプロセスを考察する。</p> <p>7) がん放射線療法に関わる看護師 (専門看護師、認定看護師など) の活動を把握し、認定看護師の役割を考察する。</p>	180

臨地実習